

日本初の輸出生糸は信州上田から

- 1 横浜開港前の上田地方の生糸—江戸中期から幕末へ 1848年
○信濃国小県郡飯沼村の吉池文之助—上田地方の生糸を集荷し前橋へ
○**飯沼村名主吉池文之助・由之助父子と上田城下商人**(万金、鼠林など) **史料1**
○上田藩と岩村田藩—幕末の海防と大砲・火薬—松代藩の佐久間象山
- 2 **火薬から生糸へ**—嘉永年間から安政の開国へ (ペリー来航) 1853年
○上田の松田玄冲と江戸の中居撰之助 **史料2**
松田玄冲 —医師で火薬製造販売者、岩村田藩へ火薬を(後の中居重右衛門)
中居撰之助—上州の火薬製造研究者、江戸に出て幕府と (後の中居重兵衛)
○玄冲と撰之助の関係は—飯沼(信州上田)と中居 (上州吾妻) 佐久間象山
○火薬が大量製造されていた同じ時代生糸が大量集荷されていた信州飯沼 (上田)
- 3 上田地方の生糸は横浜へ—安政6年1月から6月、7月へ 1859年
○幕末日本最大の貿易商人・撰之助中居重兵衛、江戸から横浜へ
○幕府老中・上田藩主松平忠固、撰之助中居重兵衛に外国貿易を **史料3**
○**上田城下商人鼠屋伊藤林之助**
「**出府日記**」の発見—日本初の輸出生糸は上田からか **史料4**
江戸—上田藩江戸家老らの重臣、江戸商人、撰之助中居重兵衛との交渉
横浜—外国商人との生糸輸出交渉
・**安政6年6月19日イギリス商人生糸を見る**—24日ごろ売買交渉成立?
—上田へ速報—7月1日ごろ上田から横浜へ生糸20個発送
—7月5日、生糸が横浜へ着く (「**祐助方糸荷二十箇持参横浜へ着**」)

《上田地方の青年商人》

明治維新を推し進めた人々—経済から

・**伊藤林之助**が江戸・横浜で活躍した安政六年、若干**20歳**

・**吉池由之助から 父・文之助への書簡群**

生糸輸出のため江戸・横浜に滞在 (**33歳**から) し外国商人と交渉、
生糸情報を上田に送り続ける (横浜では野澤屋、亀屋などに滞在)。**史料5**

午三月九日... 御開港... 御領分... 御領内... 御領外... 御領内... 御領外... 御領内... 御領外...

今般異國貿易神奈川御開港... 御領分... 御領内... 御領外... 御領内... 御領外... 御領内... 御領外...

三月九日
御付札

御名家来
西村彦兵衛

書面神奈川御開港... 御領分... 御領内... 御領外... 御領内... 御領外... 御領内... 御領外...

松平日乘 (上田藩の日記)

安政六年三月九日 (安政六年は午ではなく「未」の歳)

午三月九日外国奉行堀織部正様江御留守居使者を以
被差出候処同十一日御同所様より御留守居御呼出御付札二而御渡
今般異國貿易神奈川御開港相成
候に付伊賀守領分之産物系綿漆紙
煙草織物類其外国中潤沢餘之
品々同所御役所江差出御改を受貿易
費捌申度依而諸事取扱方之儀者
芝金杉片町中居撰之助南新堀式丁目
大崎由兵衛与申者兼而用途申付置
候者二付為取扱申度此段奉願候以上

三月九日
御名家来
西村彦兵衛

御付札

書面神奈川御開港二付御領分之産物
中居撰之助大崎由兵衛江取扱方御申付
費捌可被成与之儀者商民とも費買とも
違取計兼候儀も有之御挨拶難及尤
御領内商民共自分荷物費捌之儀相願候
もの有之候ハハ其筋役人中添輸を以拙者共
月番之方江御差出可有之候

十八日

○横濱のせんきふのり

○五反のちねん

○方

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

信州上野立物所

志比由之御様



大急用

自

頼漢



二り下り

横原寺夫通在り此書

信州飯沼

志比由之御様 中々御



一古頼漢

野澤公兼書

信州飯沼

志比由之御様 中々御

信州飯沼